

「会員短信 74」

「趣味一途」

高田敏男

これまでの趣味の遍歴を振り返ってみると、最初の趣味は入社して三年の頃だった。同僚の中に、趣味でアマチュア無線をしている人がいて、自分もモールス信号を使って世界の人と交信してみたいくなった。当時、電車通勤だったが、その三十五分間を惜しんで勉強した。一級アマチュア無線技士の試験は、法令、無線工学、実技の三科目で、大阪で受験した。合格まで二年余りを費やしたが、応援してくれていた人達が合格祝いをしてくれた。

嬉しくなって、これをきっかけに小型船舶操縦士や第一級陸上特殊無線技士等様々な免許を取った。

それから二十数年経って、会社の雲行きが怪しくなった。会社が早期退職者を募り、従業員一同が右往左往する事態となった。私は早期退職を選んだ。

それからは、毎日が日曜日になった。やってみたかった水墨画と俳句の教室に通う。

初しぐれ長屋門にも旅の人

たまたま応募した句が姫路市で佳作に入る。面白くなって俳句にのめり込んだ。努力の甲斐あって、本阿弥書店の月刊誌「俳壇」では、有馬朗人先生に年間賞をいただいた。

万愚節時刻通りの汽車が来る

八木健会長にも、二回、年間賞をいただいた。

先輩を渾名で覚え新社員

バカの数踏んで人生文化の日

これらの句は、数々の免許と共に私の宝物になっている。